

はじめに

横浜市は、平成18年6月に、旧基本構想を33年ぶりに見直し、これからの20年を展望した新しい「横浜市基本構想」(長期ビジョン)を策定いたしました。この基本構想では「市民力と創造力により新しい『横浜らしさ』を生み出す都市」として、これからの20年、横浜が目指す都市の姿を示しております。また、この都市像を支えるため、5つの柱を打ち出しており、そのひとつに、次の世代に良好な都市環境を継承するための横浜の環境像として、「市民の知恵がつくる環境行動都市」を示しております。

この「横浜の環境」(横浜市環境管理計画年次報告書)は、横浜市における環境の現状や、横浜市環境管理計画に掲げた目標達成のための様々な施策・事業の取組について、毎年振り返りを行い、その結果を公表するものです。今回の報告書では、緑化、河川整備や環境教育など、横浜で実施されている様々な環境施策について特集を組み、横浜市の環境に対する多彩な取組を皆様に知っていただけるよう努めました。

横浜の環境をめぐる状況として、地球環境問題の深刻化と緑の減少が挙げられます。過去100年の気温上昇は、全国の中小都市の平均が約1.0度である一方、横浜市は約2.6度となっています。また、市内の温室効果ガスの総排出量は、様々な取組を重ねているにもかかわらず、平成15年度は、京都議定書の規定による基準年の平成2年度と比較をして約26%増加しています。温室効果ガスの主要物質である二酸化炭素の吸収源となる緑についても、その総量の市内における割合は、都市化の進展などにより減少が続いています。私たちは、この様な現状を日々の暮らしの中で感じることは、あまりないかもしれませんが。しかし、実際は深刻な環境の危機に直面しており、この報告書の中で、危機回避のために実施されている多くの取組を紹介しております。

この報告書を通じて、皆様が横浜市の環境の状況や取組施策などについて、一層認識を深め、一人ひとりの生活の中で地球環境にやさしい行動を実践し、結び付けていただければ幸いです。これからも、「地域から地球に広がる環境行動都市の創造」をめざし、不断の努力を重ねてまいりますので、市民・事業者の皆様の一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

横浜市長 中田 宏